



## 通知票の見方

(2, 3年生の皆さんも再確認してください)

中学1年生にとっては「5から1の数字で評定がつく通知票」は初めてのことで、その評価・評定の概要をお伝えします。

評価に使う**材料**は大きく分けると次の3種類です。

- ① 中間・期末等の**テストや実技・作品の成績**
- ② 授業への**参加状況・態度・意欲や発言**の状況
- ③ 課題や宿題等の**提出物**の状況

各教科ごとに4～5つある「**学習状況の観点**」の**到達度**を上①～③をもとに評価します。その**結果(到達度)**はそれぞれの欄に次のように記載されます。

- ◎→「観点のねらいが十分に達成できている」
- 「観点のねらいがおおむね達成できている」
- 空欄→「努力を要する」

----- (ここまでは小学校とほぼ同じです。次からが中学校で加わる内容です。) -----

上の**観点ごとの◎や○の状況**で「**その教科の評定(数字)**」が決まります。

例えば**全てが◎**なら、その教科の**評定**は「**5(大変優れている)**」となり、全て空欄なら「**1(努力を要する)**」となります。

その他の評定(4, 3, 2)については・・・

- 4：やや優れている
- 3：普通
- 2：やや努力を要する・・・となっています。

なお、極端な例ですがテストや実技が毎回100点満点でも、「授業への集中が今ひとつ」とか「宿題・提出物が期日までに提出されない」という場合には「評定5」にはなりません。

今日お渡しした通知票でお知らせするのは「**1学期の評定**」です。最終的には1年間を通しての結果である「**学年末の評定**」が記録として残ります。

今回結果が思わしくなかったという場合には(そうでなくても)2学期に挽回、向上の**チャンスは全員に等しく**あります。ぜひ、通知票の観点別項目の評価も参考にして、不得意分野を洗い出し、夏休みの勉強に取り組んでほしいものです。

## いわき南地区中学生弁論大会

14日泉公民館にて開催

本校からも佐藤藍さんが参加し、「つながる」の題で発表しました。内容も立派で声も良く通り、その結果「更生保護女性会長賞」をいただきました。暑い中でのスピーチ、お疲れ様でした。



## 吹奏楽コンクールいわき支部大会

16日アリオスにて開催

本校からは34名の吹奏楽部が参加し、課題曲と自由曲の2曲を演奏しました。聴いていて、まとまりのある力強い演奏だと感じました。他校のレベルも相対的に向上しているようで、結果としては銅賞でしたが、私にとっては最高の演奏で、感動しました。ありがとうございました！



## 夏休み明けの行事予定

(夏休みは37日間です。それは長いのか、短いのか?)

- 8月27日(月) 始業式、美化作業、月1授業、学活、11:55下校、部活動なし
- 28日(火) 3年生:学カテスト、1・2年生:課題確認テスト
- 29日(水) 二者教育相談(～9月4日)
- 30日(木) 市英語弁論大会(アリオス)、Nコン県大会(音楽堂)
- 9月6日(木) 市駅伝大会(グリーンスタジアム)
- 7日(金) 後期生徒会役員選挙

## 夏休みに、ぜひ考えてほしいことの一つ「戦争と平和について」

終戦から70年以上過ぎていますので、私自身には直接の戦争体験はありません。しかし、私の父親やその兄弟は戦争に参加していました。

私の父は少年飛行兵でした。訓練を積んでやがては戦闘機のパイロットを目指していたようです。初歩の飛行訓練は四倉周辺の海岸で、グライダーを使って行われていたと聞きました。

海岸での訓練中のある日、沖に現れたアメリカの軍艦からの砲撃がありました。少年兵たちは一斉に砂浜に掘ってある塹壕(通称:たこつぼ)に隠れました。激しい砲撃がしばらく続き、父の隠れていた隣のたこつぼは砲弾の直撃を受け、仲間が亡くなったそうです。その時の破片で父も負傷しました。ケガは命に関わるものではありませんでした。しかし、父の右の脇腹には消えることのない傷ができました。考えてみれば、その着弾が数メートルずれていれば、亡くなるのは父だったはずで、そうなら私もこの世に生まれてこなかったことになります。

戦争は国家と国家のもめ事を武力で解決しようとすることです。「国家と国家」とはいえ、実際には人間同士が武器を使って争うことです。そして傷つき亡くなるのは人間である私たち一人ひとりです。勝っても負けても個人には心や身体の傷・悲劇しか残りません。

父の身体に刻まれた傷を見ながら、その経緯を聞いたのはいつのことだったか、はっきりとは覚えていません。父と一緒に入浴した時だったか、それとも家族で海水浴に行った時だったか。いずれにしても「平和な時」に聞いたに違いありません。

このように戦争の話ができるのは今が平和である証拠です。しかし、その直接の証人と彼らから得られる知識は段々と減っています。知識がなければ正しい判断はできません。そのためにも戦争から目をそらさずに様々な情報に触れてほしいのです。

夏休み期間中には8月6日の「広島平和祈念式典」、8月9日の「長崎平和祈念式典」そして8月15日の「終戦記念日」があります。身内や親類、ご近所に年配の方がいたら、ぜひ当時の話を聞いて、知識を深めてほしいものです。また、自分なりの方法で調べることも可能なはずですよ。

知識が深まれば、正しい判断へとつながります。そしてその判断が、戦争の無い世界の構築に貢献すると私は信じています。